

岩手郡医報

昭和56年10月 - № 6 -
編集/発行
岩手郡医師会



多々良山

国道281号線をはさんで平庭岳と丁度反対側に多々良山、通称「さんだい」又は鼻黒岳と呼ばれる高原が展開している。

平庭岳の方は白樺林とつづじの群生で観光客も多いが、多々良山の方は登り口が見つけにくい故か訪れる人も殆んど無いが、眺望絶佳であり夕闇迫れば遙か久慈・八戸方面の漁火もみら

れる。暴走族ならぬ本当のオートバイ野郎達が日本の各地から集って行われる「七時雨山莊一晩代間往復」のイーハトーヴオ、トライアルのコースにも含まれており、岩手の自然を愛する彼等から「さんだいなべ」と呼ばれ、こよなき安息の場とされている。

(撮影、文、近藤純造)

行事関係報告

1 厚生省関係

昭和56年7月23日附厚生省公衆衛生局保健情報課予防接種係長より、
予防接種実施規則の一部改正に伴う百日咳の予防接種について

2 県医師会関係

(イ) 8月29日の臨時代議員に於て、佐々木会長死亡に伴い岩動副会長を会長職務執行者と決定す。

(ロ) 故佐々木会長に功労金200万円を支給することに決定。(予備費より)

(ハ) 9月19、20日岩手県医師会担当にて盛岡市に於て開催せらるゝ東北医師連合会総会に、多数出席せらるゝ様要請あり。

19日午後2時よりの武見日本医師会長の講演会に多数出席す。

(ニ) 9月7日第13回医療実態調査について、当医師会より宮杜、島岡先生が調査を委嘱される。

(ホ) 九洲医師連合会—日本医師会—岩手県医師会を通じ柔道整復師による「医療行為とまぎらわしい施術の実情調査」についての調査依頼あり。

9月30日現在当医師会管内に於ては安代町に疑を持たれる所1ヶ所あり、更に調査中。

(ヘ) 9月22日労働基準法施行規則の一部改正についての通知あり。

会員に通知済なり。

3 郡医師会関係

(イ) 9月9日滝沢村長より三種混合予防接種の料金改正について

これは従来より副作用少なき新ワクチンの開発によるものなり。

個別接種—従来1人1,750円を

今回1人2,750円とする。

これは接種液の値上りによるものなり。

(ロ) 9月19日管内保健課長並消防分署長、郡医師会役員並役員不在の町村の医師代表による協議会を下記の通り開催す。

記

(1) 日 時 9月19日 午后5時より

(2) 場 所 繁温泉ひまわり荘

(3) 協議題 ① 救急患者対策について

② 町村並に消防署側より医師会に対する要望について

参会者 保健課長 8名

消防分署長 8名

医師会より 11名

非常に盛会かつ有意なる発言あり。

4 岩手県関係

~~健~~環境保全部長より在宅看護婦の教育について

て

5 盛岡市長より

国民健康保険証の更新について

(9月1日より)

6 医療局長より

9月29日附県立沼宮内病院の結核病床20床を一般病床に転用いたしたきに付同意を求める。

同日附にて下記の通り同意す。

記

昭和56年9月29日附医業第673号による県立沼宮内病院の結核病床を一般病床に転用の件同意するも岩手保健所管内には在宅結核患者今尚多きに鑑み将来この結核患者の収容について万全を期せられ度御願いする。

7 其の他

10月17日午後2時より下記により学校保健講演会並懇談会を開催の予定

記

- (1) 日時 昭和56年10月17日 午後2時より
- (2) 場所 玉山村中央公民館
- (3) 講師 県立中央病院小児科長 広岡先生
- 演題 学童にみられる無症候性血尿及び蛋白尿について

(4) 参会予定者

- (1) 各町村養護教諭全員並養護教諭配置なき学校の保健主事
- (2) 教育長又は教育次長の中1名宛
- (3) 医師会側
会長、副会長、学校保健担当理事
及び各町村より学校医代表1名宛
詳細は次号に。

以上

特別寄稿

日本は心の病気

遠藤善蔵

去る六月のある日のこと、体の調子が変わったのでかかりつけの御医者様のところへ行ったときのことである。丁度患者も少ない時間だったので、少しお話して行きませんかと自宅に誘われてお茶を御馳走になったときのことである。

話がまたまた病人と医師との関係のことになり、今は亡き名医だった岩手県医師会長だった佐々木一夫先生に話題が及んだのである。

それは三月の岩手医大の卒業式の祝辞の一コマのことである。「医師の地位の低下が叫ばれたのは医学、医術に専念するあまり人間形成を怠ったことにある。」と指摘。さらに「1人間の生命が地球より重い程尊厳であるならば、その生命と直接対する医師は人間として力量感あふれるようありたい。常に確固たる歴史観、人生観、生命観を持ち続ける基本姿勢をももってもらいたい。ソロバンや計算機片手に、保険診療報酬の点数計算にばかり明けくれる医師にはなって貰いたくない。」と結んだ佐々木会長のお祝辞を卒業生たちはどう聞きとったことであろう。（岩手日報風土計より転記）

私の主治医の先生は、私の医者の便利屋である。勿論診療報酬を無視した医は仁術の世界だ

けを歩むことは出来ない。然し私よりスタッフの揃った施設の整った医療機関に御紹介することは患者の幸でもあり、また医師としての責務でもあると思うからであると話されております。

私も二度ほど他の病院に紹介されて早期全快したことがある。妻などは二度三度も専門医に紹介されお蔭で早期全快している。

私の友人の妻が入院したことである。

二、三ヶ月も入院したが一向に快方に向ってくれない。どこか専門の先生のところに転院したいと申し出たところ、私が信用出来ないならどこなり転院しなさいと言われ、転院も出来ないまま二、三ヶ月療養生活を続けたある日、突然先生から転院の話があり、転院目前にあの世行きである。それまでの生命だったかも知れない。然し割り切れないのが夫であり、子供達だったことには間違いのない事実なのです。

医師の使命は病気を治してあげることである。

このことは論の余地はないと思います。然し患者となった場合は本人は勿論のこと、家族も患者と同様に弱者なのです。この弱者は病気は勿論のことですが、心もまた弱者であり患者なのです。患者の身になって話し相手になって心

の病気から治療して貰いたいのです。名医であっても「私を信用しなさい」の一言では不安の連続なのです。十日で治る病気も、一ヶ月もかかるような気がするのです。とくに〇〇科や〇科の先生方はレントゲン写真はこうだ、だからこうするのだと言って、お聞きしても、一言、「心配はいらない」の御返事。ときには相手にもなってくれない場合もあるのです。亡き佐々木先生の話された歴史観、人生観のことを考えさせられることも多いのです。私は今社会福祉協議会の役員をして居り、妻は児童民生委員をして居りますので余計あれこれ耳に入ることが多いのです。ときにはどこかに取上げてもらいたい気になるのですが、私自身患者の1人であり弱者の1人なのです。医者の薬漬け、五種も六種も、馬に喰わせる程の薬、輿論にまけてかと思ったら薬局の隅には袋入れの薬箱、患者もまた悪い。無料だから、一日に2、3の医者への梯子診察。有料化反対、考えさせられること

もしばしばです。世の先生方、ソロバンや計算機を忘れて下さいとは申し上げません。せめて、人生観を忘れないで患者に親切な心のアドバイスをしていただこうと願ってやみません。私の主治医の先生は投薬も1、2服です。それでも長者番付の何位かに位して居ります。最後に過般放送された連続ドラマ「ある少女の死」はごらんならても参考になるかとも思います。

私の不思議。公立病院は赤字赤字、個人病院は次々とデラックス病院建設のこと、誰かお教えいただければ幸いです。

御紹介

遠藤善蔵氏は岩手町黒石出身、70才二戸郡金田一青年学校長、九戸郡山形村来内小中学校長、岩手郡岩手町北山形、一方井小学校長、岩手中央公民館長を歴任。現在岩手町社会福祉協議会副会長、岩手町監査委員の要職について居られます。

(編集員)

鳴呼あの頃（其の五）

上野精三

昭和8年1、2月の前例なき豪雪も3月も下旬となり春の訪れと共に消雪し入隊当時の苦しさも幾分楽になり、毎週土曜午後（練兵休）の洗濯つまり覆布、敷布、枕覆、襦袢、衿下、軍手、軍足、貴重品袋等の水による洗濯も日増しに楽になってきました。この水による寒中の洗濯、班内掃除は軍隊ならでは味わえない辛さでしたが、又この辛さを乗り越えて軍人精神が養なわれたものと思われます。この4月には私共にとって次の様な管内変化が発生した次第です。

1) 入営2ヶ月で古兵となる

4月1日に岩手師範学校の卒業生大部が短期現役兵という名称で入隊したため、私達は古兵となったわけです。師範学校卒業生の中には1～2名の幹部候補生として入隊した者

もありましたが、大部は5ヶ月の兵役を終了し将来軍人と全く関係ない人間となるこの短期現役兵として入隊するのです。肩の星1つで除隊の際国民軍士官適任証書と云う厚紙を貰って、そう云う訳で管内生活、練兵共軍人とは云いかねる軍服を着た若い地方人男子でした。

2) 外出の際軽装となる

2月、3月の2ヶ月間外出の際必ず着用を命ぜられたあの重い外套も不要となり身軽に外出できる様になった訳です。但し例のS特務曹長の外出の際の説教つまり「最後の突撃はするんじゃないぞ」のお叱りは従前通りです。

3) 長男と二、三男の差別について

意地悪な人事係 S 特務曹長は私共の身上調書を握って居るので誰が長男で、誰が二、三男かは詳細に知つておる訳です。

4月始めの土曜の午後、練兵休で洗濯も終り班内で談笑中、突然中隊事務室当番が班内に来て、S 候補生殿 S 特務曹長がお呼びでございますとのこと、誰かが S 君何か悪いことでもしたのかと言うと、S 君曰く、僕は何も説教喰う様な事をした覚がないとのこと、とにかく早く行って叱られてこいよ、と誰か云う。S 君は唯一の二男で他は全部長男です。

S 君は、俺は戦死してもよいが皆は戦死したら困るだろうな、などとよく冗談を言って居る気持のよい人でY県T町（現在は市）の出身で家は大きな酒造家。父は吾々同様幹部候補生出身の後備役陸軍歩兵少将、T町の在郷軍人分会長、T町町議会副議長という地方の名士でした。まもなく S 君が班内に帰ったので一同 S 君何説教喰ったのと問うたら、彼笑顔で明日御座敷がかかったとのこと、詳細に聞いたなら彼曰く、明朝 8 時 30 分 営門の手前 100 m の師団經理部倉庫前にタクシーが来て中に若い女性が乗つて待つて居るから、その車に同乗し○○町の○○医院に行くようにと言われたりと言う。

私達は S 君に突撃は慎重にする様注意を与え、尚歩兵操典、陣中要務令によれば突撃は勇猛果敢なるを要すとあるも、S 候補生が行うであろうと予想せらる。この際の突撃は多くは失敗を招くものなることを S 君に申し渡した。

当時弘前市内の開業医にて男の子がなく女の子ばかりの先生方が衛生部幹部候補生の人事係の S 特務曹長に婿探しを依頼してあったらしい。S 君一人だけ二男であとは全員不運にも長男でしたので S 君だけ毎日曜方々の開業医の方から御座敷がかかった訳です。当時

開業医で自家用車を持って居る方はなく、S 君美人附添えのタクシーで送迎です。

私共長男の悲哀を骨の髓迄感じた訳です。

除隊近くなつて S 特務曹長が同僚に「今年の衛生部幹部候補生は不作だ」と言ったことを耳にしました。この様な訳で S 特務曹長の突撃禁止令が出たものでした。いやしくも帝国軍人に突撃禁止なんて失礼な話でした。只 S 君は何回も方々の開業医の先生方より若い美人のお酌で御馳走になり乍ら曰く、相手は何れも美人で何不足ないけれど談笑中に意味不明の所謂津軽語で「ワイハー、マイネアー、カチャクチャネー」と言われるので一寸やそっとのお誘などで結婚に踏切れないとのことでした。併し S 君、除隊 2 週間前の○温泉ホテル K に於ける私共の離散会の際、○川向いの○○医院の美人令嬢を川越しに見染め、湯上りの浴衣姿のまま飛込んで、婿入りした訳です。この項は「其の十」に詳細に述べます。

尚玉山村の秋浜先生の御夫人は詳細をよく知つて居ります。

4) 還送患者と遺骨の出迎え

これは軍務として誠に重要な職務でした。

何分満州事変の真只中、しかも川原挺身旅団の熱河作戦の際ですので在満第八師団（師団長加賀百万石の殿様の子孫爵利為中将、後の 大将）の還送患者及び遺骨が月に 2 ~ 3 回弘前駅に到着します。当時大阪発羽越線経由青森行急行は一本だけで弘前着は午前 4 時 30 分です。私達は午前 2 時 30 分の深夜起床、徒步で弘前駅迄行軍です。練兵の疲れで起床が大変でした。誰かが曰く「これではかなわない。一日 1 本の羽越線廻り急行が弘前に午前 10 時頃着く様鐵道大臣（現在は運輸大臣と國鐵総裁）に陳情書を出そうと云う案を中隊長鳴海三郎大尉（後の岩手医専軍事教官）に話して叱られたことがあります。

尚還送迎で駅に行く都度最も不思議に感じたのは私達の整列して居る向側に在弘前将校婦人会の方々が深夜にもかかわらず必ず整列して居ることです。その順序は身長、年齢に関係なく何時も同じ順序です。後で教官齊藤中尉に聞いたなら、あれは親父の階級の順序だよとのこと、よくも忘れず定位置に並ぶものと感心した次第です。齊藤教官曰く、あれは将校婦人会と言わず山犬会と云うとのことでした。後年私も6ヶ月の内地勤務の際この将校婦人会には全く閉口したものです。在盛岡将校婦人会の幹事、別名小間使いなど命ぜられて。又小さな子供があるため、安月給の

将校でも、どうしてもお手伝いさん（当時女士）を雇わねばなりませんでした。昔の貧乏将校の例えに貧乏少尉（月給1ヶ月70円83銭）、やりくり中尉（2等給85円、1等給94円16銭）、やっとか大尉（3等給122円50銭、2等給137円50銭、1等給155円）という言葉がありました。

次号桜の名所満開の頃に弘前公園入口の衛兵見習い、分隊長試験について述べます。

医師会野球大会始末記

北上市で行われた第33回大会は折柄の第15号台風で試合不可能となりプラザホテルに於てジャンケンで優勝を決める事になった。前夜祭で今年こそ優勝をと大いに張り切っていたチームの面々もいさゝか拍子抜けした故かジャンケン競技も事前の作戦が裏目に出で一回戦で敗退し、結局東磐井チームがたった三人で二戸チームを降し優勝を遂げた。我が岩手チームはそれでも敗者復活戦では優勝を遂げたが、来年はジャンケンでなく本当の試合で優勝したいものである。



編集後記

こゝ2、3日山々は急に色づき始め紅、黄、紫と錦をおりなし、ススキの穂が淡い光をあび銀色にかがやきゆれている。

みのりの秋を迎えて農家の人々の心はさえない。いまわしい台風15号でした。

本号は遠藤氏より御寄稿を戴きました。色々と御意見もあることゝ思いますが咀嚼し受けるべきは謙虚に受けとるべきと考えますが如何でしょうか。氏は末文に公営と私営のことについて教えをお望になって居られます。会員からの御意見を編集員までお寄せ下さい。

上野先生の“嗚呼あの頃”では若き幹部候補生の一人がS特務曹長の忠告に反し、いよいよ突撃に入ったようです。 (M)